

第31回

東京モーターサイクルショー開催

あなたを待っている
マシンがある



春 恒例の二輪車ショー「東京モーターサイクルショー」が第31回目を迎え、去る4月2日(金)～4日(日)の3日間、江東区の東京ビッグサイトにおいて開催された。

今年は、例年の1.5倍に会場を拡大し、実車・カスタム車やパーツ・アクセサリ用品等の展示・販売が屋内会場で、新車の試乗会や青少年少女モーターサイクルスポーツ体験スクール、トライアルデモンストレーション走行、中古車フェアが屋外会場において行われた。

出展内容は、国内外のオートバイメーカーより参考出展車や市販予定車に留まらず、カスタマイズ車やパーツ、電動自転車、電動スクーターが、またパーツメーカーからはサスペンションやマフラー、デイスチャージ式バルブ取付キット、ドライブチェーン、ブレーキパッド、セキュリティ用品の展示が行われた。

会場に入ってまず目を引かれたのが、「Ninja・ZX-10R」のエンジン等をカットした展示車。美しくカットされており、普段目にする事のないエンジン内部や触媒まで良く見えるため、多数の来場者が興味を示していた。

他ブースへ目を移すとアメリカンバイクでは、マッチョでありながら近未来的でスマートな形をしたものが参考出展されていた。今後の



Ninja・ZX-10R
エンジン内部がよく見える！

アメリカン乗りは無骨な男のイメージに大人を加えたような？乗り手が登場しそうだ。

パーツ関係では、未だ参考出品の段階であるが、性能と環境問題を両立させる手段のひとつとして排気制御装置を付けたマフラーが展示されていた。



ヨシムラ・排気デバイス付「サイクロン」

今は研究中のため商品化の予定などは決まっていないそうだが、展示物を見る限り、四輪自動車でも最近発売されている電子制御で排気をコントロールするものと同様のものように思えた。ただ、バイクではまだ電子制御式燃料噴射装置を装備したものが少ないため、開発は大変そうに思えるが、今後の発表が楽しみだ。

驚いたのは、玩具メーカーの「TAKARA」より、折りたたみ式電動スクーターが展示されていたこと。電動スクーターといっても足こぎペダルが付いている不思議なスクーターだ。





近未来的なフルキューレ・ルーン
水平対向6気筒!



特徴は、モーター駆動とペダル駆動を使い分けでき、折り畳みもできるもの。車両重量が27kgと軽いことから遠出をした際の足としても幅広く使えそうである。自転車として気楽に使えそうなものだが、道路交通法では原動機付自転車の扱いになり、ペダル駆動だけの場合でもヘルメット着用・免許保持のうえ乗車しないといけないことが惜しいところだ。二輪車をさらに普及させるカンフル剤として期待したい。

他には、本年2月まで放送の「仮面ライダー555 (ファイズ)」で活躍したバイク (オートバジン、サイドバッシャー) や、海外でも人気の

高い大友克洋氏の漫画「AKIRA」で登場した「金田SPECIAL」と呼ばれているバイクが空想の世界からそのまま抜け出たかのように展示してあり、子供を連れてきても飽きさせない工夫がされていた。特に「金田SPECIAL」はデジタルメータ (漫画を忠実に再現) やDVDナビ付き、しかも実走行可能というもので、製作に関わった方々の執念を感じてしまう代物だ。さすがにこの作品は、子供よりも20・30代の大人が群がっていた。



元祖電動スクーター「パッソル」



折りたたみ式電動スクーター「tu」

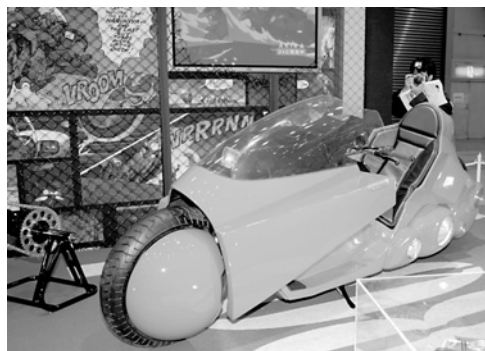
このように、ショーは大変楽しく、バイクにこれから乗ろうと思っている人や子供にもバイクの楽しみが伝わるものに仕上がっていた。

昔はバイクの免許を取ることで自体「不良」のレッテルを貼られたものだが、今回のショーを見て、「バイクはおしゃれで夢のある・楽しい乗り物」という印象を強く受けた。

バイクは、一部の人間が交通ルールを無視し、違法改造を施し、騒音や浄化されていない排ガスを撒き散らしてさえいなければ、とても経済効率や機動性の高い楽しい乗り物として社会に評価される。

今回のショーを通じて、ハイテク化された二輪自動車製品が多数紹介されていたこともあり、今後の二輪自動車マーケットにおける整備の重要性を強く感じた。

仮面ライダーファイズ「オートバジン」(右)とカイザの「サイドバッシャー」(下)



AKIRA「金田SPECIAL」